

放射線群書類従（第6回）

放射線安全取扱部会広報専門委員会

1. はじめに

連載企画としてスタートした群書類従が当初予定していた回数である第6回目を迎えた。広報専門委員会では、原子力事故をきっかけに大量に出回った関連出版物について、専門的に見て妥当性があるのか、また、イデオロギーを主張する場となっていないかなどを整理してみようと本企画を始めたものである。もちろん、主任者が放射線周辺知識を増やすのに役立つかという観点も考慮した。今回までに75冊を紹介したが、最近は専門書ばかりで辛口な書評がなく御用学者ならぬ御用企画とのご批判もいただいている。委員は自腹で書籍を購入して読んでいるので、書籍選択にはやや偏りがあるかもしれない。特に最近、委員自身がもともと所蔵していた書籍の書評もあったので、新鮮みに欠けていたと反省している。一方、これを参考に書籍を購入してみたという嬉しいコメントとともに是非とも本企画を継続してほしいとのご意見もいただいた。

そこで、この群書類従企画は不定期連載という形で継続し、今回は最終回ではなく第6回とさせていただきます。

2. 評価方法及び寸評

主任者がどのような目的で書籍を探しているかの視点に立って、以下の5項目について評価する。

- ① 専門家向け：放射線取扱主任者等の専門知識を持った方々に向いている内容
- ② 一般向け：一般の方々が読んでも理解可能な内容
- ③ 科学的：内容に科学的な裏付けがある
- ④ 放射線影響：放射線の人体影響についての話題がある
- ⑤ 教育訓練：放射線業務従事者の教育訓練資料として使用可能な内容

評価は4段階で示した。なお、評価自体は広報専門委員の主観である。

- ◎：非常に多い、または、とても向いている
- ：多い、または、向いている
- △：ある、または、多少触れている
- ：ない、または、評価対象外

企画の趣旨を踏まえて忌憚無く意見を述べさせていただきますことをご容赦いただきたい。また、書籍の内容全体が分かるように、2~3行の寸評を記載する。こちらも評価と同様に専門委員の主観である。

「紫式部は放射能を食べたか」 著者：市川龍資 電力新報社 1992年11月20日初版

B6判・168頁・1,000円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	◎	○	△	○

寸評：世の中にかに、放射線・放射能がありふれているかについて様々な事例を紹介している。コラム的に読むと面白い。(Y.Y.)

「改訂版 虎の巻 低線量放射線と健康影響」 著者：土居雅広ほか 医療科学社 2012年11月21日初版

A5判・206頁・2,300円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	△	◎	◎	○

寸評：どうやら我々日本人は、研究のための科学と規制のための科学を区別して考えることや説明することが苦手なようである。分かっていることと分かっていないこと、そしてその境界領域に存在する規制の理解を確実に固めることが放射線専門家の使命ではないか。規制科学の確立の道半ばで異国で倒れた土居氏がこの境界領域に切り込んだ、渾身の遺作。(N.M.)

「放射線被ばく CT検査でがんになる」 編集：近藤誠 亜紀書房 2011年6月23日初版

四六判・216頁・1,300円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	○	○	△	△

寸評：福島第一原発事故に関連し、医療における放射線 CT検査について根拠となるデータを示しながら解説している。著者の意見は極度に過激な面も伺えるが、医療現場への問題提起を毒舌で促しているのではないかと、という視点から読むと面白い。(K.O.)

主任者 コーナー

「シルクロードの今昔—2012年タリム盆地調査から見える未曾有の核爆発災害，僧侶と科学者の運命の出会い（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」 著者：高田純 医療科学社 2013年6月4日初版
A5判・80頁・1,000円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	—	—	△	△	—

寸評：核実験の実態を明らかにしたいと考えて行動されたのはよく分かる。科学的にも正しいのは理解できる。その一方で，文章にバイアスがかかり過ぎているため，一般にも専門家にも理解してもらえないのではなからうか。研究者に求められるのは科学的な真実を明らかにすることであるが，何よりも不偏不党たらねばならないことを思い知らされた1冊。(S.H.)

「放射性元素物語」 著者：松浦辰男 研成社 1992年3月1日初版
A6判・154頁・1,165円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	○	○	△	△

寸評：緒論で放射能の解説，大半は様々な分野での放射線の利用について簡便に説明されている。(Y.Y.)

「放射線から家族を守る安全・安心の知識」 著者：那須正夫 朝日新聞出版 2011年8月5日初版
B6判・130頁・1,000円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	◎	◎	◎	—

寸評：一般向けに書かれたものと思われ，入門書的な切り口で読みやすい。内容的には既に知っていることが多く専門家にはもの足りないかもしれないが，うまく伝えるための工夫がなされており参考になることが多い書である。(A.K.)

「基本を知る放射能と放射線」 著者：藤高和信 誠文堂新光社 2011年7月29日初版
A5判・143頁・1,300円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	◎	◎	△	○

寸評：放射線の基礎から測定，利用まで，幅広い範囲で項目ごとに見開きで説明されており読みやすい。一般人向けとはいえ，随所に専門知識がちりばめられている。(Y.U.)

「わかりやすい放射線測定」 著者：松原昌平ほか 日本規格協会 2013年1月23日初版

A5判・148頁・1,524円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	◎	—	◎

寸評：様々な放射線測定器の測定原理や特性，専門用語の解説等，放射線の測定について基礎から専門知識にまで及んだ解説書である。震災以降，線量測定は身近なものとなった。必要とされる方，興味がある方にとっては非常に有用であろう。ただし，全く予備知識がないと少し難しいかもしれない。(A.S.)

「内部被曝の脅威—原爆から劣化ウラン弾まで」 著者：肥田舜太郎 ちくま新書 2005年6月10日初版

新書判・208頁・720円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	—	○	—	◎	—

寸評：著者の経験・伝聞に基づいて，いかに内部被ばくが危ないかについて解説されている。しかし，ほとんどの事例が情緒的であり，全ての症状が放射線の所為であるかのように語られている。疫学的な考察はないものの，何も知らない人に放射線（特に内部被ばく）がいかに危険かを知らしめるには効果的である。放射線の基礎知識等により科学的側面を残しつつ，広島での被曝の実体験，実名による病状解説，著者が医師であるなどは，いよいよ真実味を増していく。一般人に内在する放射線に対する恐怖というのはこのような書籍から伝播していくのかもと考えさせられる1冊。(Y.Y.)

「放射線とつきあう時代を生きる」 著者：岩崎民子 丸善出版 2013年5月31日初版

四六判・200頁・1,800円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	—	◎	◎	○	○

寸評：放射線が生活や産業，研究などのどのような場面に，どのように使われているのかについて，具体的な事例が多く（半分強のページが割かれている）紹介されている。また，放射線事故についても具体的な事例が簡潔に記載され，正しく知ろう，正しく怖がろう，正しく付き合おうという著者のモットーが示されている。ただ，本書が読者として想定する小学・中学・高等学校の先生には敷居の高い専門用語や言い回しが散見される。(M.M.)

主任者 コーナー

「低線量放射線を超えて：福島・日本再生への提案」 著者：宇野賀津子 小学館 2013年8月5日初版

新書判・217頁・720円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	◎	◎	—

寸評：ついに、出た！ と感銘を受けた、正しく目から鱗の1冊である。原発事故後の低線量放射線の生体への影響について科学的な裏付けを持って、科学者と称される方々の様々な発言や行動事例について冷静に論評しているところはとても好感。とにかく本書は一般・専門家の方々には是非とも一読願いたい。(K.O.)

「原発安全宣言」 著者：渡部昇一ほか 遊タイム出版 2013年7月1日初版

B6判・166頁・1,200円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	○	○	◎	△

寸評：評論家と放射線影響の専門家との対談。一部の人が放射線の影響を誤って過大に評価しているという意見には納得できる面が多いが、そのまま“原発安全宣言”に話が盛り上がっていくのにはついていけない。(Y.U.)

「低線量放射線被曝：チェルノブイリから福島へ」 著者：今中哲二 岩波書店 2012年10月25日初版

四六判・229頁・1,800円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	—	○	○	—

寸評：「おわりに」で、一般市民が納得して多少の放射能は受け入れるようになることに役立つ旨の記載があるのに惹かれて読ませていただいた。科学的事実を基に議論を構築しようとした書ではあるが、だからこれからどうするという視点がなければ、未来に向かって開かれたメッセージにはならないのではなからうか。(Y.I.)

「正しいリスクの伝え方」 著者：小島正美 エネルギーフォーラム 2011年6月30日初版

B6判・239頁・1,200円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	◎	○	—

寸評：著者は毎日新聞生活報道部編集委員。メディアは世論形成に大きな役割を果たしているが、作り出された世論は必ずしもメディアが思い描いていたものと一致しないことを考えさせられる。書籍のタイトル通りに上手く実践しても受け止め方は千差万別で、それを過去の報道から反省を込めて解説している。読み終わればリスクコミュニケーションの引き出しが増えることは間違いない。(A.K.)

「放射能を基本から知るためのキーワード」 著者：ウェイン・ビドル 翻訳：梶山あゆみ 河出書房新社 2013年2月28日初版

四六判・288頁・1,800円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	—	◎	○	○	△

寸評：アメリカのジャーナリストが放射線に関する84の項目立てをし、科学的、社会的にどのように話題になったかをまとめたもの。¹⁹²Ir, ⁴⁰K, Po等の多くの放射性核種やLNT仮説、放射性降下物などの項目があり一部には出典や参考文献も示されているが、著者のジャーナリストとしての見解も添えられている。原題に“A Field Guide to Radiation”とあるように、各項目について、まず手っ取り早く知るための導入本としては有用。(M.M.)

『「原発事故報告書」の真実とウソ』 著者：塩谷喜雄 文藝春秋 2013年2月20日初版

新書判・230頁・750円＋税

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	○	—	—

寸評：東京電力福島第一原子力発電所事故の原因究明のために設置された4つの事故調査委員会の報告書を徹底検証。辛口な論評だが、科学的視点から膨大な量の報告書を読み解いた根気に敬意。また、組織の事務方トップの責任を追求できない？ しない？ この国の体制を指摘した点に共感。科学技術大国でありながら科学的根拠に基づき人命の安全対策を徹底できないこの国の根底が見えてくる。組織のトップに求められるのは誠実さだということも気付かされた。おすすめの1冊である。(K.O.)

〔書評者一覧(50音順)〕

池本祐志, 上養義朋, 小野孝二, 川辺睦, 鈴木朗史, 桧垣正吾, 松田尚樹, 宮本昌明, 矢鋪祐司, 吉田浩子